

中学1年2組 英語科学習指導案

指導者 須田香織

ペア・グループ活動で課題を解決しようとしたり、意見を交換するようなかかわり合いをもたせたことは、思考力・判断力・表現力を高め合うことに有効であったか。

1 単元名 Unit 7 カナダの学校 ～質問をして話題を盛り上げよう～

2 授業の構想

(1) 本学級の生徒は、学習に対して前向きで、基礎的な知識を習得するために単語や基本文を練習したり、積極的に友だちとの音読練習をしたりする姿が多く見られる。表現することにも慣れつつあり、5文程度で自分のことや友達についてまとまりのある文章を書くことができるようになってきている。また、英語を使ってコミュニケーションを図ることに喜びを感じる生徒も多い。次に挙げるのは、“What do you do after school?”の問いに対して、ペアで1分間会話を続ける活動を行った時の振り返りである。「英語で話しているという感じが新鮮で楽しかったです。」「自分なりの応答が英語でできて良かったです。決められた文ではないところに魅力がありました。英語で会話をしたことがなかったから良かったです。」と感想を述べている。しかし、その反面「会話が続かなかった。お互いに“What do you do?”を何度も繰り返しただけで終わった。」「I go home.」と言われた後、会話が終わってしまった。帰った後に何をすると、聞くにはどうすれば良かったのか。」といった疑問や感想を述べている生徒がいることも事実である。後者の生徒がうまく会話を続けることができなかった原因は2つ考えられる。1つ目として、質問をされた側が1文で終わっていることである。1文で終わってしまうと相手に与える情報が少なく、聞き手もそれについて反応がしにくく、会話が弾まないことが考えられる。2つ目として、既習の表現を自分のこととして会話の中で使うことに慣れていないことである。日本語を英語に直したり、与えられたトピックについて英語で書いたりすることに慣れてきてはいるものの、実際のコミュニケーション場面において、相手の言ったことに反応したり、聞き返したり、または質問をしたりする経験がまだまだ不十分であることが考えられる。このような生徒の実態を考えた上で、「豊かなコミュニケーションを図ろうとする」子どもの姿を実現すべく、学習した言語材料をどこでどのように活用すべきかを考えさせ、コミュニケーションに慣れさせる必要があると考え、本単元の授業を構想した。

(2) 本単元は、カナダの中学生としてグリーン先生の弟のビルが紹介され、彼とテレビ会議を通して、日本とカナダの天気や時刻についての対話が行われたり、カナダの学校生活について聞いたりしながら疑問詞who, what time, howとその応答文を学習する。

今までwhat以外では「はい、いいえ」を問う質問しかできなかったが、このUnitでは新しくwho, what time, howといった疑問詞を含んだ文やその応答文、または既習の表現をどのように実際の会話において使うのかを学習する。このUnitでは、既習表現や新出表現を用いて、スピーチ活動を行う。この活動では、生徒が自ら興味関心のある話題についてスピーチを行い、その後、聞き手は質問したり、自分の意見を伝えたりする。who, what time, howを用いると、質問できる内容に深まりが出たり、表現の幅も広がったりすることが期待される。また、それらの新しい表現を習得するために言語材料の実際の使用場面を考えさせたり、どうしたら会話が続けるのか、発話された文章が文法的に正しいのかを判断させたりする。相手が言ったことに対して、自分のもっている知識や技能を使い分けて、質問したり、自分の情報を伝えたりしながら、グループで協力して会話を継続し、話の内容を深めていく必要がある。会話を継続するためには、何をどのように伝えればいいのか、相手の言ったことにどう反応し質問すればいいのかなど、思考・判断を繰り返しながら表現していく。会話の途中で、言いたいことがあるのに、英語でどう表現すればいいのか分からない、またはどうすれば相手と良い関係を保ちながら会話を継続

するのか、などの疑問やもどかしさが出てくることが予想される。これらの課題をグループまたはクラス全体で共有することで、他者の課題を自分のこととして捉え、お互いに学ぶことによって、思考力・判断力・表現力が育成されるのではないかと考える。

本部会では、「豊かな学びの姿」をただ単に基礎的・基本的な知識や技能が定着している状態を指すのではなく、他者とのかかわり合いを通して、それらを高め合い、探究心をもってさらなる自己の伸長を図る姿をとらえている。そのため、ペアやグループをうまく活用し、相手から学んだり、自分の良さを再認識したりしながら、もっと知りたい、もっと学びたいと思うような生徒の育成を目指している。

小学校の外国語活動では、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさ、つまり「もっと使ってみよう」、「英語でどう言えば良いのだろう」といったコミュニケーションの素地を育ててきている。これらの気持ちを大事にしつつ、本単元では、相手をもっと知ろう、相手に自分を知らせてもらおうという気持ちをもとに、互いに協力して会話を継続させていく。グループで活動するという事は、一人一人が質問したり情報を伝えたりする「発信」と相手の言ったことを聞き、理解する「受信」を繰り返さなければならない。また、その発信と受信の間には、思考し判断することが必要不可欠であり、受信をした後にはさらに発信をしなければ会話は継続しない。ここで言う「思考・判断」とは、相手の質問に対して、自分のことを振り返ったり、自分の考えを整理したりすること、また、それらを英語で伝えるためにはどんな単語や文法を使えば良いのか選択すること、相手と自分の意見が違う時に、相手の気持ちを尊重しつつ自分の意見を伝えるためにはどんな言い方が適切なのかを考え、判断することを指す。自分では考え付かなかった表現をグループ学習によって学んだり、「会話を継続する」という課題を一緒に解決していくことで自己の伸長をめざしたいと考えている。

(3)本単元の最終には、生徒の興味関心のあるトピックのスピーチをし、それについて質問したり、新しい情報を付け加えたりする活動を行い、疑問詞who, what time, howを含んだ文とその応答文の習得を図り、実際の使用場面を疑似体験させ、言語材料の活用を図りたいと考えている。1次では、友達の写真を見せながらその人について説明をwhoを用いて質問する活動をさせたい。友達や好きな歌手・スポーツ選手を紹介する活動は前Unitでも扱っているが、やり方を変えながら繰り返し行うことで、間違いを正したり、新しい表現を学んだりする機会にしたいと考えている。2次では、社会科で学んだ時差を思い出させながら、世界の時間や天気を尋ねたり、応答したりすることを学ぶ。ここでは、特に実際の使用場面を意識させたい。例えば、時間が知りたい人が時計が見えるのに“What time~?”と尋ねたり、純粋に天気が知りたい人が窓の外から空が見えるのに、“How's the weather?”を尋ねたりすることは、実際のコミュニケーションではほとんどないと思われる。もし、あるとするならば、話し手は時間や天気が知りたいのではなく、別の目的があることが予想される。したがって、実際の使用場面を意識させるために、既習の表現と疑問詞を用いて、与えられた課題を解決するタスク活動を取り入れたい。タスク活動とは、「言語知識を静的なものから動的なものへと変える媒体的なもの」であり、「構造シラバスを基本として構成されている検定教科書を用いた指導を前提として、学習者が使用する言語形式を主体的に選択し、相手との自然なコミュニケーションを通して、与えられた課題を遂行する、原則として対話形式の活動や発表を指すものである。」(高島英幸：実践的コミュニケーションのための英語のタスク活動と文法指導)ここでは、「予算内で先輩が気に入りそうなプレゼントを買う」という疑似体験を通して、話し手の情報や考えなど何らかのギャップを疑問詞what, what time, how muchを含んだ文とその応答文を用いて埋めながら、お互いに必要な情報を交換し、課題を解決していく。その過程で、その場に応じた表現を選択し、疑問詞を含んだ文とその応答文の定着を図りたい。3次では、生徒の興味関心のあるトピック(自分の好きな人やもの、普段自分がしていること、紹介したい人やもの)のスピーチをし、それについて質問したり、新しい情報を付け加えたりしながら、新出表現の習得を図り、そして活用する機会にさせたい。活動の中で使うであろう表現(質問、反応、情報の付け加え)を繰り返し行い、基礎基本の定着を図る。スピーチ活動では、グループごとに司会をおき、一人ひとりが発言できる機会を十分にとりたい。また、表現力の幅をさらに広げるために聞き手はメモをとるようにしたい。グループ発表後にも参考になった表現を全体で共有し、さらに表現力の向上を図っていきたい。

3 活動展開計画（全6時間 本時6／6）

次	主な学習活動・内容	時	具体的な学習活動
1	ビルって誰だろう？	1 2	・疑問詞whoの意味や構造および、その運用について理解する。 ・写真などを見ながら、whoを用いて簡単な会話をす る。
2	世界の時刻と天気を知ろう！	3 4	・疑問詞what time, howの意味や構造および、その運 用について理解する。 ・what timeを含んだ文とその応答文を用いて簡単な会 話をする。（タスク活動）
3	質問をして話題を盛り上げよう！	5 ⑥	・疑問詞what, howを用いたまとまりのある文章を聞い たり読んだりして、内容を理解する。 ・疑問詞を用いて、会話する。

4 評価計画

次	時	コミュニケーション への関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知 識・理解	英語科における思考力・判断 力・表現力
1	1 2	うなずいたり、反応したりしながら相手の話に関心をもっている。	伝えたいことを聞き手に正確に伝えている。		疑問詞whoを含んだ文の意味や構造、およびその運用についての知識を身に付けている。	自分が伝えたいことについて、文法的なルールに則って考え、大事な部分を強調するなど工夫して相手に伝えて
2	3 4	学んだ表現を積極的に使って質問したり、答えたりしている。	場面に応じて、適切な文法事項を用いて対話している。		疑問詞what time, howを含んだ文の意味や構造、およびその運用についての知識を身に付けている。	自分が伝えたい事を英文の構成を考え、既習の表現から選択し、相手にわかりやすい適切な表現を用いて伝えて
3	5 ⑥	さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。	疑問詞を含んだ文など、既習の表現を用いて質問したり、新しい情報を付け加えたりして会話を続けている。	大事な部分を聞き取ったり、読み取ったりしている。		既習の言語材料を選択し相手の言ったことに応じて反応したり、質問したり、自分の情報を伝えたりして会話を継続している。また、会話を振り返りながら、文法のルールに則って表現している。

5 本時の学習

(1)ねらい 既習の表現や疑問詞 (who, what time, how) を用いて、相手に質問するなどして会話を継続させることができる。

(2)展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
<p>1. あいさつ→Small Q&A</p> <p>2. ペアで会話活動を行う。</p> <p>①会話活動で使う表現（疑問詞を含んだ文とその応答文）を練習する。</p> <p>②ペアで会話活動をする。</p> <p>③会話を書いて、間違いを直したり、付け加えたりする。</p> <p>3. 疑問詞を用いた会話（教科書p 6 2, 6 3）の復習をする。</p>	<p>・あいさつの後、話題を広げるような質問をする。</p> <p>・会話活動や次のスピーチ活動が活発に行えるように、既習の表現を何度も言わせるよう時間を区切って練習させる。</p> <p>・単語のつづり、文の構造、疑問詞とその応答、会話の流れなどを客観的にみさせて、間違いを直させる。また、クラス全体に会話が続いたペアの例を紹介し、次の活動の参考にさせる。</p> <p>・教科書の会話を参考にしながら、疑問詞にはどんなものがあるのか、またその応答の仕方はどうすれば良いのかなど前時を振り返る。</p>
<p>既習の表現や疑問詞 (who, what time, how) を用いて、質問しながら会話を継続し、お互いのことを知る機会にしよう</p>	
<p>4. スピーチ活動を行う。</p> <p>5. グループでスピーチをする。→質問・応答 聞き手は、質問するためと今後参考にしたい表現を増やすためにメモをとる。</p> <p>6. グループごとに、参考にしたい表現をホワイトボードに記入して全体に紹介する。</p> <p>7. 学習を振り返る。</p>	<p>・今後の参考になるように、スピーカーと聞き手それぞれの留意点を確認する。（スピーカー：伝わる音量・適度なスピード・目線・表情など。聞き手：質問に生かせるメモ・質問など）</p> <p>・司会をおき、全員が質問するように伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（思考力・判断力・表現力）</p> <p>既習または新出の言語材料を選択して質問したり、相手の言ったことに返答したり、自分の情報を伝えたりして会話を継続している。また、会話を振り返りながら、文法のルールに則って表現している。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 ワークシート、観察】</p> </div> <p>・本時で学んだことを整理し、自分の発言はどうだったのか、また友達から何を学んだのかを振り返らせ、次につなげる。</p>